

南あわじ市 平成 19 年度 事務事業評価シート 新規 継続
(事業 委託 補助用)

I 基本事項

整理番号 115

事業名	友好市町・姉妹都市派遣団補助金		予算科目	会計	一般会計・1
担当部課名	市長公室			款	総務費・2款
電話	0799 - 43 - 5002			項	総務管理費・1項
事業分類	<input type="checkbox"/> 義務的(法定)事務 <input checked="" type="checkbox"/> 任意的(自治)事務	法的根拠 (法令、条例、要綱等)		目	まちづくり推進費・6目
南あわじ市総合計画 施策体系	まちづくりの柱	人づくり_知恵あふれ_郷土愛が満ちるまちづくり_			
	まちづくりの目標	一人ひとりが明日を拓くリーダー【教育】			
	施策目標	子ども達や市民が、南あわじ市の未来を切り拓くための、多様な能力を身につける機会を提供する			
該当する事業について「 」を選択		施策的	業務委託	負担金補助	

II Plan (計画、事業内容、事業背景)

事業概要	目的	対象(誰を・どのような状況の人に) 市を代表する団体(高校生以下)及び派遣先となる新ひだか町・平取町・葛巻町・大野市・糸魚川市				対象人数(人) 20
	目的	意図(どのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入) 南あわじ市の国内の姉妹都市・友好市町の各種団体との交流を推進し、相互交流と友好親善を深めながら、特色あるまちづくり、地域づくりに努める。				
	実施内容	(何をどのような手段・内容・手順により目的を達成させるのか) 広報5月で派遣団員を募集し、姉妹都市・友好市町の各種団体との相互交流を推進する。 平成18年度実績 南あわじ市サッカー協会 北海道新ひだか町 742,000円(16名) 志知高等学校郷土芸能部 北海道新ひだか町他 799,000円(27名)				
	背景	(どのような現状・課題・要望によって事業が実施されるに至ったか、他の自治体の動向など) 旧西淡町と旧静内町の姉妹都市交流において、少年サッカーの相互交流が行われていたのが背景にあり、南あわじ市姉妹都市・友好市町交流事業派遣規程が策定された。				
	事業実施主体	<input type="checkbox"/> 市直営 <input checked="" type="checkbox"/> 民間・その他 (少年・少女文化スポーツ団体等)				
	事業期間	<input type="checkbox"/> 平成 年度 ~ 平成 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし				
	合併協議事務調整内容	(合併前における事業実施団体と合併時における事務調整経緯) <input type="checkbox"/> 旧緑町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧西淡町 <input type="checkbox"/> 旧三原町 <input type="checkbox"/> 旧南淡町 <input type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input type="checkbox"/> 新市から 旧西淡町が、小学生のスポーツ交流に706千円の補助を継続して行っていた。				

Ⅲ Do (事業活動・成果、投入資源・コスト)

「実施内容」により得られる活動結果指標 (アウトプット)	指標名	応募件数	指標単位 件			
	指標説明 (指標算出方法等)	応募件数より住民のニーズを計る。				
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
	目標値	2	3	5	5	
	実績値	2	2	2		
	達成度 (%)	100.0	66.7	40.0	-	
目標値設定の考え方	応募件数が多ければ、住民ニーズが高いと評価できる。					
アウトプットにより達成される「目的」に対する事業の成果指標 (アウトカム)	指標名	満足度	指標単位 %			
	指標説明 (指標算出方法等)	相互交流と友好親善を深め、特色あるまちづくりに必要かどうかの満足度を計る。				
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
	目標値	80	100	100	100	
	実績値	80	100	99		
	達成度 (%)	100.0	100.0	99.0	-	
目標値設定の考え方	アンケート等の実施により、満足度を計る。					
資源配分 (インプット)		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
	直接事業費 (千円)	1,352	1,541	1,000	1,000	
	友好市町・姉妹都市派遣団補助金	1,352	1,541	1,000	1,000	
	財源 (千円)					
	国					
	県					
	起債					
	その他					
	一般財源[A]	1,352	1,541	1,000	1,000	
	人件費(正規職員)[B] (千円)	154	150	151	151	
	平均人件費(1日当り)	30.7	29.9	30.1	30.1	
	事業量1(事業に要した日数)	5	5	5	5	
事業量2(事業に要した人数)	1	1	1	1		
年間経費([A]+[B])	1,506	1,691	1,151	1,151		
「目的」対象人数1人当り経費 (千円)	75.3	84.5	57.5	57.5		
受益者人数(43)1人当り経費(千円)	27.4	39.3	26.8	26.8		
経費に関する補足説明						

IV Check (事業の自己評価・一次評価)

	単位	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
達成度	活動結果指標目標達成度	%	100.0	66.7	40.0	-
	(アウトプットの達成度分析、問題点・課題などを記入。) 昨年度は、目標には至っておらず、応募件数からまだまだ市民ニーズが低いと考える。					自己評価 (5点評価)
						3
有効性	成果指標目標達成度	%	100.0	100.0	99.0	-
	成果向上率	%	-	25.0	1.0	-
	(事業実施による目的に対しての有効性分析、問題点・課題などを記入。) ある程度の成果はあるが、対象者が少ない。					自己評価 (5点評価)
						3
効率性	活動実績1単位当り経費	千円	752.8	845.3	575.3	-
	効率性増減率	%	-	12.3	31.9	-
	(効率性・コストの分析、問題点・課題などを記入。) 北海道の友好市町との交流となれば、1団体に約1,000千円の助成が必要であり、また同じ団体からの応募が予想されるので、今後の動向を見ながら派遣規定を見直す必要がある。 平成19年度より、中高生の補助率を1/2に統一する。					自己評価 (5点評価)
						3
必要性	公共性の高低	<input type="checkbox"/> 高	<input checked="" type="checkbox"/> 中	<input type="checkbox"/> 低		
	(公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) 友好市町との交流を深め、継続するには民間、特に青少年の派遣や受入活動を継続することが大切である。 しかし、平成19年度についても現在の応募は2件しかなく、ニーズは低い。					自己評価 (5点評価)
						3
総合評価	自己評価をふまえた現状分析 新ひだか町(旧静内町)にも同様の派遣規定があると想定されるので、調整を図るとともに、住民ニーズの動向をみて、南あわじ市姉妹都市・友好市町派遣規定を見直す必要がある。					<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>評価グラフ</p> </div>

V Action&Plan (改善の内容及び次年度以降の計画)

	平成20年度にできる改善・改革	平成21年度以降にできる中期的な改善・改革
今後の方向性とその理由	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input checked="" type="checkbox"/> 手法見直し	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input checked="" type="checkbox"/> 手法見直し
	<p>平成19年度より、負担の公平性を勘案して中高生の補助率を1/2に統一している。</p> <p>また、機会の均等を図ることを考慮して、申込み団体の応募回数を確認し、同一団体の派遣が複数回になるようであれば当該年度に派遣するかの適否を検討する必要がある。</p>	同左
(現状維持以外の改善方法)	<p>応募団体の派遣回数が複数回となるようであれば、隔年以上の間隔での派遣となるよう調整する。</p>	同左
改善によって期待される効果 (現状維持以外の場合)	<p>効果(アウトカム)面</p> <p>相互交流が多分野に広がることとなり、広く特色あるまちづくり、地域づくりを図ることができる。</p>	<p>効果(アウトカム)面</p> <p>同左</p>
	<p>コスト面</p> <p>経費の削減が期待できる。</p>	<p>コスト面</p> <p>同左</p>
(現状維持の場合も記入)	<p>仮に事業を中止、統廃合した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面)</p> <p>事業を中止すれば、今まで交流を深めてきた団体(少年サッカー等)への影響は大きく、また友好市町の意義も薄まる。</p>	